

賛成 2氏に聞く 反対

がれき問題考える
講演会きよう開催
北杜、梶山氏を講師に
北杜市の市民グループ
「4月3日のひろば」は28
日、ごみ問題に取り組み弁

Weekend Report

護士で理学博士の梶山正三
さんを講師に、同市大泉町
西井出の「いずみ活性化施
設」で講演会「震災がれき
を『そもそも』から考え
る」を開く。
梶山さんは元東京都公害
研究所員。震災がれきを韮
崎市の焼却施設で処理した
場合の環境への影響などに
ついて語る。資料代500
円。問い合わせは久松重光
さん(080・5055・
2909)へ。

災害、ひとごとじゃない

梶山 雄一さん
県議・民主会派代表



がれき処理については、
「自分たちが被災する立場
になったときどうするか」ということも考えない
といけない。山梨でも大地
震や山津波、原発事故を伴
う災害が起こりうる。ひと
ごとじゃありません。
昨夏ごろまでは、子ども
がいる主婦などの間で「絶

対にノー」という空気があ
った。だが、震災1年を迎
えた今年の3月11日前後
に、被災地で山積みになっ
ているがれきの映像が流
れ、世論の潮目が変わっ
た。
山梨県も、灰の処分場が
ないという事情はあるにせ
よ、できることは協力する
役割を担った。
気持ちは大事だと考え、県
議会として後押しした。
「絆」と口では言いなが
ら、「がれきはノー」でい
いのか。被災者になった立
場で考えないといけない。
ひぐち・ゆういち 県
議。民主系会派「フォーラ
ム未来」代表。2月の県議
会で、がれきの広域処理に
ついて県に積極的な関与を
求める決議の際、中心的な
役割を担った。



震災がれきの広域処理
は、民主的プロセスを経な
いまま上からの押しつけで
進められており、国による
地方自治体への施策の強
制。受け入れないと「冷た
い」「身勝手」と批判され
ること自体が問題だ。
直営の処分場を持つ県で
すら、灰の埋め立てについ
ては住民の了解に四苦八苦
している。最終処分場がな
い山梨で、県議会が県に
「受け入れを積極的に支援
すべきだ」と決議するもの
もおかしい。一般廃棄物の処
理は市町村の自治事務。住
民の理解を得てすすめるべ
き問題で、県や県議会が出
る幕はない。

そもそも放射性物質を拡
散させてまで広域処理をす
る必要はない。焼却処理に
固執せず、がれきを集めて
山にし長期間管理するなど
の案を検討すれば、新たな
雇用も生まれ、環境、経済
面の負担も少なくて済む。
いけだ・こみち 民間の
シンクタンク、環境総合研
究所(東京都)顧問。長野
県環境審議会委員などを務
めた。

上から押しつけはダメ

池田こみちさん
環境総研顧問

焼却灰の処理ネック

震災がれきの県内受け入れ

東日本大震災で発生した岩手、宮城両県のがれきの広域処理で、山梨では八つの自治体や事務組合が「条件付きで受け入れ可能」と県に回答した。だが、県内にはがれきの焼却灰を埋める処分場がない。がれきの受け入れが、通常のごみ処理にも影響するのではないかの懸念もあり、受け入れは容易ではない。

県外搬出めど立たず

震災1年を迎えた3月、野田佳彦首相が記者会見で広域処理への協力を呼びかけた。これを受けて県内8施設が「受け入れは可能」と回答したが、いずれも「地元住民の理解」に加え、「がれきの焼却灰を受け入れてくれる県外の自治体の同意が得られること」を条件とした。

廃棄物処理法では、ごみ処理は、出した地域で最後まで処分する「区域内処理」が原則だ。ところが、山梨は自治体の規模が小さ

い上、盆地で十分な用地を確保しにくい事情がある。かつては、甲府市と大月市に四つの埋め立て施設があったが、2010年までに全て容量を超え、現在は使われていない。

笛吹市境川町に建設予定の境川最終処分場は、操業開始まで早くてあと6年。この間、家庭や企業などから出るごみは県内で焼却した後、灰は長野や茨城、群馬、奈良各県の民間施設に

持ち出して埋め立てるしか方法がない。

県内で唯一稼働している最終処分場の明野処分場（北杜市明野町）も、破砕した産業廃棄物の埋め立て

用で、県と環境整備事業団、北杜市が結ぶ「公害防止協定」で灰の搬入は認め

ていない。協定を変更しない限り灰の埋め立ては不可

能で、横内正明知事も「協定を変えるつもりは当面ない」と、明野での受け入れ

には否定的だ。

県によると、8施設を運

営する自治体や事務組合は、すでに水面下で県外の自治体にはがれきの焼却灰の受け入れを打診している。

だが、原発事故の直接的な影響を受けている関東地方の自治体は「すでに被害があるのに、さらに他県からの灰も受け入れるのは難しい」と回答。焼却灰の放射性物質の濃度について、国の基準（1キあたり8千

ベシ）よりも厳しい独自基準を設けている自治体もあり、引受先のめどは立っていないのが現状だ。

出てくるという。

ある施設の担当者は「がれきの件で無理にお願いして先方の気を損ねれば、普段の灰の受け入れまで難しくなる」。

広域処理するがれきの量が、当初より少なくなる可能性もある。国がこれまで見積もってきたがれきは2千万ト。このうち400万トを広域処理の対象として

きた。

だが宮城県村井嘉浩知事は23日、「がれきが予想以上に海に流れ、当初より量が少なくなる」との見通しを述べた。この発言を受け、「処理能力の低い山梨で受け入れる必要がどこまであるのか」と話す県幹部もいる。

県が、がれき受け入れに前向きな背景には、「県が積極的に市町村を支援すべきだ」との県議会での決議が背景にあるが、別の県幹部は「決議は重いが、山梨での受け入れには様々な高いハードルがある」と話している。

（板垣麻衣子、田村隆）

条件付き「受け入れ可能」8施設

	施設名	所在地	設置主体
①	環境センター付属焼却工場	甲府市上町	甲府市
②	環境美化センターごみ処理施設	富士吉田市小見	富士吉田市
③	クリーンセンター	上野原市上野原	上野原市
④	クリーンセンターごみ処理施設	山中湖村平野	山中湖村
⑤	清掃センター	中央市一町畑	中巨摩地区広域事務組合
⑥	エコパークたつおか	韮崎市龍岡町下條南割	峡北広域行政事務組合
⑦	ごみ焼却場	身延町下田原	峡南衛生組合
⑧	ごみ処理施設	大月市初狩町中初狩	大月都留広域事務組合



一般ごみ灰の汚染も心配

がれきの受け入れには、新たなリスクも伴う。がれきを焼却する際は、一般のごみを燃やしているのと同じ炉を使うため、炉内で灰が混ざることが避けられない。一般ごみの灰も放射性物質に汚染される可能性があり、がれきを受け入れることで、県外の自治体から一般ごみの灰の受け入れまで敬遠される恐れが

一般ごみ灰の汚染も心配

だが宮城県村井嘉浩知事は23日、「がれきが予想以上に海に流れ、当初より量が少なくなる」との見通しを述べた。この発言を受け、「処理能力の低い山梨で受け入れる必要がどこまであるのか」と話す県幹部もいる。

県が、がれき受け入れに前向きな背景には、「県が積極的に市町村を支援すべきだ」との県議会での決議が背景にあるが、別の県幹部は「決議は重いが、山梨での受け入れには様々な高いハードルがある」と話している。

（板垣麻衣子、田村隆）